

非常通信セミナー 【アンケート集約結果】

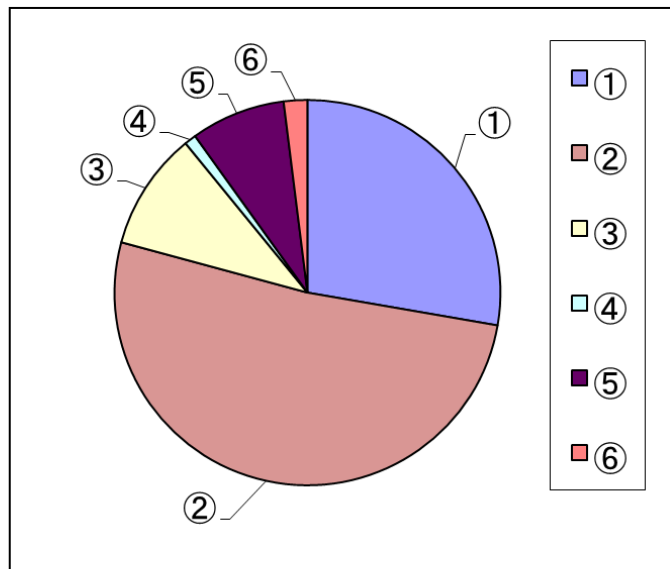
- 日時 平成26年5月29日(木) 15:00~16:20
- 会場 広島ガーデンパレス 2階 孔雀・朱鷺の間
- 主催 総務省中国総合通信局、中国地方非常通信協議会、中国情報通信懇談会
- 協賛 情報通信月間推進協議会
- 参加者数/アンケート回収数 140名/88名 (回収率62.9%)

1 開催を何でお知りになりましたか。(複数回答可)

どこから

- ①中国総合通信局
- ②中国地方非常通信協議会
- ③中国情報通信懇談会
- ④新聞等
- ⑤上司・同僚・知人等
- ⑥その他

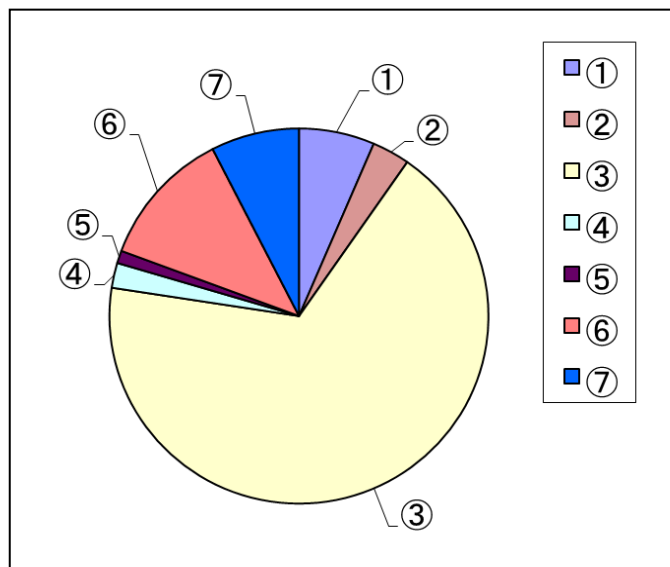
番号	回答数
①	28
②	52
③	10
④	1
⑤	8
⑥	2
計	101



どのような方法で

- ①HP
- ②メールマガジン
- ③メール
- ④記事等
- ⑤FAX
- ⑥直接聞いて
- ⑦その他

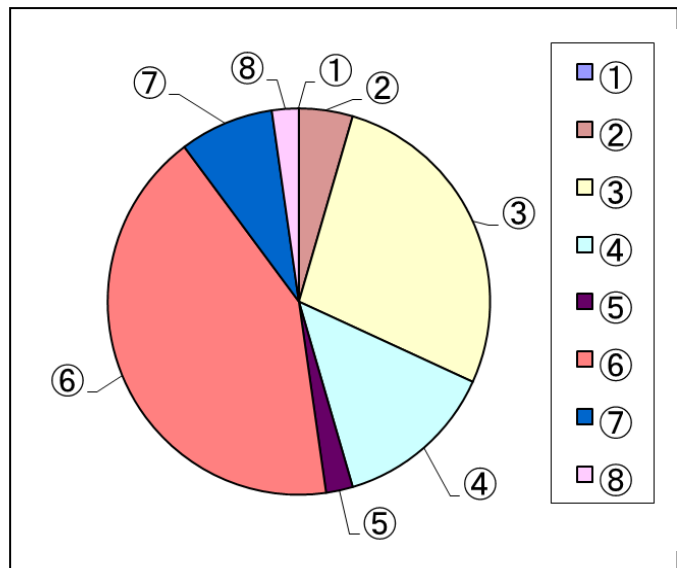
番号	回答数
①	6
②	3
③	63
④	2
⑤	1
⑥	11
⑦	7
計	93



2 貴方が所属する企業・団体の主な業務分野は次のどれですか。一つ選んで番号に○印をつけてください。

- ①製造・販売 ②エネルギー ③情報通信 ④放送 ⑤サービス ⑥公務
 ⑦事業 ⑧個人

番号	回答数
①	0
②	4
③	24
④	12
⑤	2
⑥	37
⑦	7
⑧	2
計	88



3 本セミナー各話題についてご意見・ご感想をお願いします。

講演『南海トラフ巨大地震に備える』～瀬戸内沿岸における地震・津波予想と事前対策～

講師：高知大学 総合研究センター 防災部門 特任教授 岡村 真 氏

大変参考になった	67	興味がわく話だった	67
参考になった	17	興味がわかない話だった	0
あまり参考にならなかった	1	おもしろかった	4
全く参考にならなかった	0	つまらなかった	0

1. 地震・津波に対する認識が変わった。
2. 自社の災害対策を考える上で、大変参考になった。通信の重要性がよくわかった。
3. 映像を提供してほしい。
4. 津波を想定して、訓練を行うべきだと感じた。
5. これまで、瀬戸内は大きな津波は発生しないものと思っていた。地震の揺れが長く続くと大きな津波が発生し、甚大な被害を受けることを知った。
6. 訓練（避難ルートの確保）は、とても重要だと再認識した。
7. 地震の恐怖だけでなく、どのような地震が起きるかがわかり、具体的な対策を考えることができた。
8. 正しい知識と繰り返しの訓練が重要であることがよくわかった。従業員の命を預かる立場として真剣に考えてみたい。
9. 自分の身は自分で守ること、災害に対する知識・行動力が大切であることを学んだ。
10. いつ起こるかもしれない災害について、あらためて深刻に考えさせられた。
11. 今日初めて聞く話が多くて、大変参考になった。
12. 質疑・応答の時間があって良かったが、講演時間の設定が不十分だと感じた。
13. すごく良かった。
14. 大変興味深い話を聞くことができた。

15. 津波の恐ろしさを良く理解することができた。情報の共有、知識を持つことの大切さを学べた。間違っただ知識を持つことは良くないことだと思った。
16. 大変興味深い話を聞くことができて良かった。
17. 改めて津波の恐怖を思い知った。周囲に是非周知したい。
18. あらためて津波のすごさを認識した。
19. 1m・2mクラスの津波の力が、いかに大きいものかよくわかった。
20. 映像を交えての講演で、とてもわかりやすかった。
21. 今日のセミナーで初めて知った事がある。防災関係機関に身を置く者として、恥ずかしことだと思った。ぜひ、もう一度、どこかで話を聞きたい。
22. 本日のセミナーで、3分以上揺れると津波が発生すること、1. 5時間～2時間後に津波が到達すること、迅速に避難場所へ移動し、安全が確認できるまで、そこから離れないこと、人命が一番大切であること、寝室に避難用道具（靴・バール等）を用意しておくこと、防災設備を使った避難訓練を行っておくことがわかった。
23. 映像に迫力があつた。事前に地震対策をしておこうという気になった。
24. 映像に大きなインパクトを受けた。
25. もっと詳しく聞きたい。
26. 自分達の身の安全を確保する方法について、非常に興味を引いた。南海トラフ巨大地震発生後の想定される被害について、あらためて理解することができた。
27. 東日本大震災との違いについて、理解することができ、非常に為になった（津波で運ばれてくるガレキによる被害等）。防災設備・復旧活動の見直しを行いたい。
28. 「おそらく、2025年までに南海トラフ巨大地震が発生しているであろう」という話は、非常にショッキングであるが、大変身近に感じた。
29. 地震・津波について、知識を深めることができた。現実の情勢を踏まえた非常に説得力のある講演だった。
30. 「地震が発生したら津波が到達する前に直ちに逃げる」という教訓を瀬戸内地域に住む人間も常に頭の中に入れておかなければいけない。
31. 南海トラフ巨大地震について、真剣に考えていかなければと痛感したが、3日後に自分がどれだけその重要性を認識しているだろうかという不安もある。
32. 津波の恐ろしさをあらためて実感した。津波は来てほしくない。

4 これからの電波利用について、関心のあることや期待することをお書きください。

1. 各通信事業者は、災害発生時における通信手段の確保について、見直しを検討しなければいけないのではないかと強く感じた。
2. 人工衛星を使った電波利用の促進。
3. 今日のような講演を通じて、各関係機関同士のネットワークが、より一層、円滑に共有していくことを強く期待している。いざという時に当たり前に疎通できる非常通信であることを期待する。
4. 情報集配信のしくみ作り（公共wifi）
5. 高速な無線伝送システムが必要になってくるため、広帯域に使用できる周波数をなるべく低い帯域で実現してほしい。
6. 通信ツールの多重化の必要性。
7. 海上分野で参考になることがあると良い。
8. 震災・天災時における第一段階の対応（逃げる）のテーマは理解出来たが、第二段階の対応（情報の確保等）の具体的施策（自治体等との協定）の進め方やうまくいった事例、また、情報通信社会に対する役立つ方法等アドバイス。
9. 無線（帯域）の有効利用と広帯域伝送。

10. 周波数の有効利用。災害防止への優先度を娯楽より多く割り当ててほしい。
11. 過去にアマチュア無線による非常通信訓練を行っているが、目的・実施方法について再検討したい。まず、自分の周辺から見直しを行い、徐々に地域へ拡大していきたい。

5 今後、取り上げて欲しいテーマや講演者等について、ご自由にお書きください。

1. 自然災害をテーマとした講演。
 2. 通信関係企業（キャリア）の最新の災害対策について。
 3. 台風や竜巻等についても取り上げてほしい。
 4. 防災関連をテーマに行ってほしい。
 5. 防災用設備の平常時活用について。
 6. ウェアラブル端末に関する事項。
 7. 地球温暖化リスク（豪雨災害、海面上昇）、液状化リスク（電気、通信線等の地下管等）について。
 8. 地震及び液状化について。防災訓練に必要なもの。
- （その他意見等）
9. 総務省が間に入って、国・地方・民間・その他の機関が連携した、合同の非常災害訓練を設定してほしい。人と人のつながりがなければ演習も出来ない。